

声に出して味わう「平家物語」

ロイロノート・スクールの録音機能を活用して何度も音読を聴き、
音読の録音にチャレンジして、古典作品を読み味わう授業を展開します。

実践の概要

「平家物語」の「扇の的」と「敦盛の最期」の場면을、グループで音読を練習して録音する活動を行います。まずロイロノート・スクールで作成した簡単な○×問題を提示し、前時の活動内容を振り返りました。次に、教師が事前に準備した「敦盛の最期」の模範音読を全体で聴きながら、読み方や音読する時に注意するポイントを確認しました。そしてグループで文章を下読みして、各場面をどのように表現したいのかイメージをまとめて話し合い、場面のタイトルを考えました。そのイメージに合うように、グループで分担を考えて音読で表現できるように練習しました。そしてグループのメンバーで分担して音読したものを、ロイロノート・スクールを用いて録音しました。自分たちのグループの録音を聴き合って確認し、イメージ通りに伝えられているのか、音読を聴いて振り返り、上手いかなかったと感じた場合は再度録音にチャレンジしました。最後に、録音データを教師に提出したところで授業は終了です。次の授業ではお互いに聴き合い、他のグループの音読からも学んでいき、作品の読みをさらに深めていきました。

ロイロノート導入のメリット

- ・教師の録音データを個人のタブレットに配布することで、何度もモデルとなる音読を聞き返すことができるため、自分の音読の参考にすることができました。
- ・レコーディングにチャレンジするというプレッシャーが、音読学習の動機づけになりました。また、人前で大きな声で音読することに抵抗感のある生徒も、意欲的に取り組むことができました。
- ・失敗したら何度でも撮り直してチャレンジすることで、古文の文体に自然に親しむことができました。
- ・自分の音読を聴いたり、お互いの音読を聴いたりすることで、音読の表現を磨き合うことができました。

実践の目標

- ・平家物語の文章を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を読み味わう。

実践の場面

1. ○×クイズで前時の振り返りを行う

前時の学習内容を、ロイロノート・スクールで作成した○×クイズで振り返る。ごく簡単な問題にテンポよく取り組むことで、学習内容を想起させ、授業への導入をスムーズに進めることができた。

2. 教師の模範音読を聴く

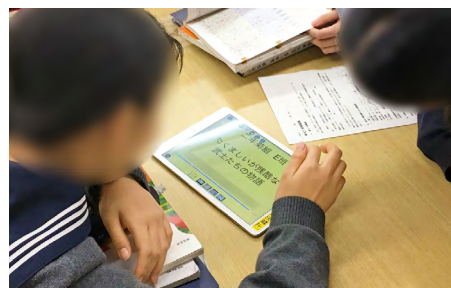
事前に準備しておいた「敦盛の最期」の教師の音読を全体で聴きながら、読み方を確認する。この時、一人ひとりのロイロノート・スクールにも同じ音読データを配布しておく。

録音データには、生徒が音読を聴きながら自然と目に入るように、音読する文章とともに、音読するときに注意するポイント（歴史的仮名遣い、係り結びなど）や、補足説明が書いてある。



3. 場面のイメージを表すタイトルを考える

各グループで、この場面をどのように表現したいかイメージをまとめ、それをタイトルにする。例えば「〇〇い物語」「〇〇な物語」のように形容詞、形容動詞で表現するように勧めた。（例「力強くたくましい物語」など。）グループによっては、音読で表現してからタイトルを考えたところもある。



4. 音読練習をする

2人に1台のタブレットに教師の録音データを配信しておき、それを何度も聞きながら、音読練習をする。間違いやすいところなどにメモを書き込むなど、工夫する生徒もいた。



5. グループで録音する

グループ内で分担して音読したものを、ロイロノート・スクールを用いて録音する。「平家物語」の文体は難しいので、なかなかすらすらと読むことは難しいが、音読に失敗したら撮り直しができるため、何度もチャレンジすることで古文の文体に読み慣れていった。また、タブレットのマイクに近づいて録音することがコツである。



6. グループで録音した音読を聴いて振り返る

自分たちのグループで録音した音読を聴き合って確認する。自分がイメージした通りに他の人にも伝えられているのか、音読を聴いて振り返り、うまくいかなかったと感じた場合は再度録音にチャレンジした。次回の授業では他のグループの録音をお互いに聴き合い、他のグループの音読からも学んでいき、作品の読みをさらに深めていくことができた。

